

## GCOE 国際会議出席報告書 (外国旅費用)

拠点リーダー 川合 光 殿

(ふりがな) 氏 名	なかい ゆうすけ	所属・職名	指導教員名 (院生の場合)
	中井 祐介	D3	石田 憲二
Tel,Fax e-mail	075-753-3783, nakai@scphys.kyoto-u.ac.jp		
発表題名	As and La NMR Study of Iron-based Layered Superconductor LaFeAs(O <sub>1-x</sub> F <sub>x</sub> )		
著者名	Yusuke Nakai, Keji Ishida, Yoichi Kamihara, Masahiro Hirano, and Hideo Hosono		
会議名称 ・開催期間	25 <sup>th</sup> international conference on Low Temperature Physics 自 2008 年 8 月 6 日 ~ 至 2008 年 8 月 13 日		
開催地 (国、市)	オランダ、アムステルダム		
出張期間	自 2008 年 8 月 5 日 ~ 至 2008 年 8 月 15 日		
国別参加者数	約 1500 人		

発表内容、聴衆の反応、質疑応答、その他について簡潔に記述してください。

## 発表内容

・最近発見された鉄系高温超伝導体 LaFeAs(O<sub>1-x</sub>F<sub>x</sub>)の、超伝導対称性と常伝導状態の磁気励起について As および La NMR によって測定した結果を報告した。これらの測定結果から、銅酸化物高温超伝導体とは異なり反強磁性ゆらぎは超伝導対生成の起源ではないように見えること、超伝導状態がこれまでの非従来型超伝導と類似した点もあるものの非常に異なる点もあることをポスター発表にて報告した。さらに、8月9日には Evening Session が特別に開かれ、申請者は5分間の口頭発表を急遽行うことになり、多くの聴衆に申請者の研究成果を聞いていただくことができた。

## 聴衆の反応

・超伝導対生成の起源に対する申請者らの主張は、おおむね受け入れられているようであった。また、実験結果から得られる結論が非常にクリアーであると多くの方々に評価していただけたように思う。

## 質疑応答

・聴衆から出された質問から、次に行うべき実験を思いつくことができ、研究者の生の声を聞くことは重要であると再認識した。

## その他

・会議期間中に、共同研究者や、この物質系を研究している多くの実験家・理論家と研究結果についての議論ができ、今後解決すべき問題点や課題を明確にすることができ、有益な会議であった。